

2016年9月11日
長島観光開発株式会社**なばなの里で絶滅危惧種の自生を確認****絶滅危惧種『オニバス』三重県内で唯一の自生^{じせい}**
美しい緑に囲まれたなばなの里「オニバス」三重県最後の自生地

「なばなの里」(所在地:三重県桑名市長島町駒江)におきまして、三重県のレッドデータブックでは絶滅危惧ⅠA類および三重県指定希少野生動植物種、国のレッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類に指定されているスイレン科の一年生の浮水性の水生植物の「オニバス」の自生を確認いたしました。

オニバス(鬼蓮)は、夏に巨大な葉を水面に広げ、大きな葉は直径2メートルにも達するそう



です。(なばなの里のオニバスは最大50cm～60cm程度)主に「ため池」に生育し、近年は極端な富栄養化や、ザリガニやカメなどの天敵による影響で、生育地が全国で減少しているとのこと。2016年9/6現在、なばなの里の中央の池全体で139株の生育を確認。三重県内で自生しているのは、三重県では「なばなの里」だけで、全国でも非常に珍しく貴重な「オニバス」となります。

(※三重県農林生産部 みどり共生推進課現地調査済み)

平成16年(2004年)当時、環境保護に積極的に取り組む活動の趣旨に賛同し、野生株から採取した種子3株を「なばなの里」に植え、2016年現在、139株を確認できるまでに生育しました。

「なばなの里」は、オニバス再生に希望の光が見えてくるよう、今後も豊かな自然や美しい花々、尊い植物を守り、次の世代に残していくための取り組みをつづけてまいります。



◆ 本件についてのお問い合わせ、取材については下記までお問い合わせ下さい。

長島観光開発株式会社 企画宣伝部 TEL 0594-45-1111(代表)

TEL 0594-45-2003(企画宣伝部 直通)

FAX 0594-45-1119

三重県農林生産部 みどり共生推進課 野生生物班

TEL:059-224-2578 / FAX:059-224-2070

<資料> 三重県総合博物館 ホームページ内の記事より抜粋

三重県総合博物館 > コレクション > スタッフのおすすめ > オニバス（鬼蓮） *Euryale ferox*

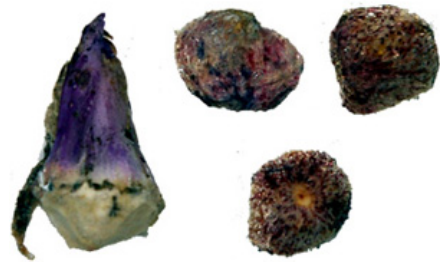
<http://www.bunka.pref.mie.lg.jp/MieMu/82993046680.htm>



ため池などの流れのない水面に、直径1メートルを超える巨大な葉を浮かせる水草です。葉や葉柄など植物体の表面全体に大きなトゲが生えていることから「鬼」の名がついています。「ハス」の名はついていますが、ハス科ではなく、スイレン科に属しています。毎年、種から芽を出す一年生の草本ですが、1メートルを超える巨大な葉をつける植物が一年草である

ことは驚きです。春先に出る若い葉は、矢じりのような形をしています。成長とともにハート型から円形へと変化しつつ、巨大化していきます。最終的には、直径が2メートルを超える葉も見られることがあります。

夏から秋（8月から10月）に、水面に直径4センチほどの紫色のスイレンに似た花をつけますが、葉の大きさに圧倒されて目立ちません。これとは別に、自家受粉（じかじゅふん）で確実に種子を残すため、花びらの開かない閉鎖花（へいさか）を水中に多数つけます。種子は、球状で種衣（しゅい・種子を包む皮）の浮力でしばらくは川面に浮いて移動し、種衣が劣化すると水中に沈んでいきます。オニバスの種子は発芽まで永い眠りにつくことがあり、数十年近く確認されていなかった津市内のため池で平成16（2004）年に自生が確認された例も知られています。



オニバスは、アジア東部（日本・中国）からインドにかけて分布が知られていて、日本では本州や四国、九州のやや富栄養化（ふえいようか）した湖沼（こしょう）や河川で見ることができます。しかし、湖沼の埋め立てや河川改修、そして水質の悪化から近年減少が進み、国のレッドデータブックでは絶滅危惧Ⅱ類^{※1}に、三重県のレッドデータブックでは絶滅危惧ⅠA類^{※2}および三重県指定希少野生動植物種に指定されています。県内では、桑名市・津市・志摩市で姿勢が確認されていますが、自然状態での発芽が毎年確認できる自生地はありません。

当館には、実物の葉を樹脂封入（じゅしふうにゅう）した標本^{※3}と実物の葉をモデルに樹脂で製作したレプリカ標本^{※4}が収蔵されています。これほど大きい葉は通例の植物のように全体をさく葉標本（押し花）とすることは難しく、樹脂封入標本やレプリカ標本にして、オニバスの大きさや特徴を理解していただける資料となっています。

※1 絶滅危惧Ⅱ類 減少要因が今後も作用し続ける場合、近い将来に絶滅の危険性がきわめて高い種（絶滅危惧Ⅰ類）となるもの

※2 絶滅危惧ⅠA類 ごく近い将来、野生における絶滅の危険性がきわめて高い種

※3 樹脂封入標本 ポリエステルやエポキシ樹脂で資料を封入した標本

※4 レプリカ標本 本物の資料から型を取り、さまざまな素材で実物資料の特徴を再現した学術的にも価値のある資料

日本のレッドデータ 検索（オニバス）

<http://www.jpnrdb.com/search.php?mode=map&q=06030351609>